

天

なぜ投球障害肩が起きるのか?

～病態から考える治療展開と、予防のためのコンディショニング～

DVD VIDEO

診る側の思い込みが治療を難しくしている!?
“人”を診て、本質を見抜く!



筒井 廣明
昭和大学藤が丘
リハビリテーション病院
スポーツ整形外科 教授



山口 光國
セラ・ラボ代表 / 理学療法士
健康心理学修士

「肩」のプロフェッショナルが、それぞれの視点から語る!

投球障害肩の病態は非常に複雑で、計測数値だけでは適切な対応を選択することは出来ません。どのような情報を、どのようにして集め、どのような解釈を持ってそれを検証するかが重要になります。

整形外科医と理学療法士の視点から、投球障害肩の捉え方、選手の診かた、治療への展開、コンディショニングなどについて講義。臨床経験や様々なデータをもとに、“人を診る”ために知っておくべきこと、意識すべきことを分かりやすく解説します。

病態から発生機序を考え、病態発生ストーリーを変える!

本セミナーでのディスカッションを無料公開!



商品番号
ME195-S

ME195-S(全4巻セット)
28,000円+税 各セット14,000円+税(送料別)
※Aセット・Bセット(各2巻・分売不可)での販売。
※本DVDは、2015年12月に行われたセミナーを収録したものです。

ジャパンライム メディカル.com

www.japanlaim-medical.com/にて、セラピストやトレーナーが抱える疑問点を、3人のプロフェッショナルが答えます!

筒井 廣明
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
スポーツ整形外科 教授

矢内 利政
早稲田大学
スポーツ科学術院 教授

山口 光國
セラ・ラボ代表 / 理学療法士
健康心理学修士

リアルな現場の今を反映したディスカッションです。是非ご覧ください。

Aセット
ME195-A

ME195-A1
+
ME195-A2

投球障害肩の診断と治療

講演者 筒井 廣明

肩の名医として知られる筒井氏が、投球障害肩の捉え方として、病態、診断、治療の基本を講義します。

投球障害肩においては、病態を治療しても同じ機械的刺激が加わればまた損傷してしまいます。重要なのは、どこか機能を変えれば機械的刺激が軽減し、効率の良い投球が出来るようになるかを考えることです。ここでは、病態から機能的な問題を考え、病態発生ストーリーを構築し、機能診断から治療を考えるという治療展開を解説します。



ME195-A1
投球障害肩の診断と治療1 51分

- イントロダクション ■投球障害肩の病態
- 病態から機能的な問題を考える
- 病態から病態発生ストーリーを考える



ME195-A2
投球障害肩の診断と治療2 42分

- 選手を診る時の思い込み
- ボールリリース時に肩関節は屈曲位?伸展位?
- 加速期からボールリリース時に肩関節は140°位の外旋可動域が必要? ○投球側のほうが筋力がある? ○野球選手なら、片脚起立くらいは出来る?
- 機能障害を見逃さないために
- ケーススタディー(診断・治療の流れ) ■まとめ

Bセット
ME195-B

ME195-B1
+
ME195-B2

投球障害肩に対するコンディショニング

講演者 山口 光國

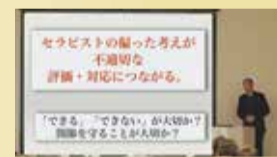
豊富な臨床経験を持つ山口氏が、「投球障害肩に対して理学療法ができること」をキーワードに、コンディショニングについて解説します。

全ての影響は必ず身体の特長として表れ、最終的には関節にかかる力学的負担が障害を招きます。セラピストは、この特長を見逃さないことが重要です。そのためには、どのように診て、どのように考えるべきか。セラピストとしての役割を踏まえた上で、とことん講義します。



ME195-B1
投球障害肩に対するコンディショニング1 37分

- セラピストとしての役割
- セラピストに求められる判断



ME195-B2
投球障害肩に対するコンディショニング2 47分

- 可動域制限の捉え方
- 筋力の捉え方 ■上肢の挙上運動
- 肩甲骨の保持と運動
- 筋力低下が問題か? ■関節は何故壊れる?
- セラピストがどう考えるか? ■まとめ

JLC ジャパンライム株式会社 TEL.03-5840-9980 FAX.03-3818-6656 http://www.japanlaim.co.jp 2016.6

地

再入稿にならないためのポイントはこちら